

Chapter 1 PEG

6 合併症・トラブル

6-3 カテーテル管理

④ 胃潰瘍

講師 鶴岡協立病院消化器内科 科長
高橋美香子

原因

- 胃瘻カテーテルによる持続的な刺激□
(対側や近傍)
- 造設の直後に新たに発症
⇒抗潰瘍薬の一時中止や造設そのもののストレス
- 脳血管障害に合併する胃潰瘍（Cushing潰瘍など）

症状

- ・ 吐下血
- ・ カテーテル内への血液逆流やカテーテル傍からの出血
- ・ 大量出血の場合は冷汗、頻脈、血圧低下などのショック症状
- ・ 腹痛の訴えは少ない（意識障害者や高齢者が多いため）
- ・ カテーテル交換時の内視鏡で発見されることもある

検査

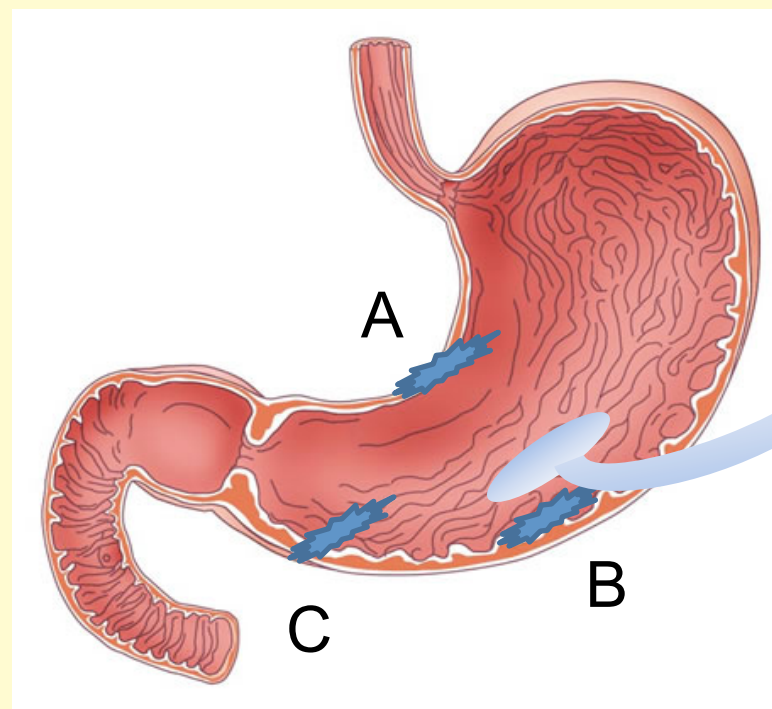
- ・ 胃瘻カテーテルからの吸引で胃内の血液の存在を確認
- ・ 出血を確認したら内視鏡検査を

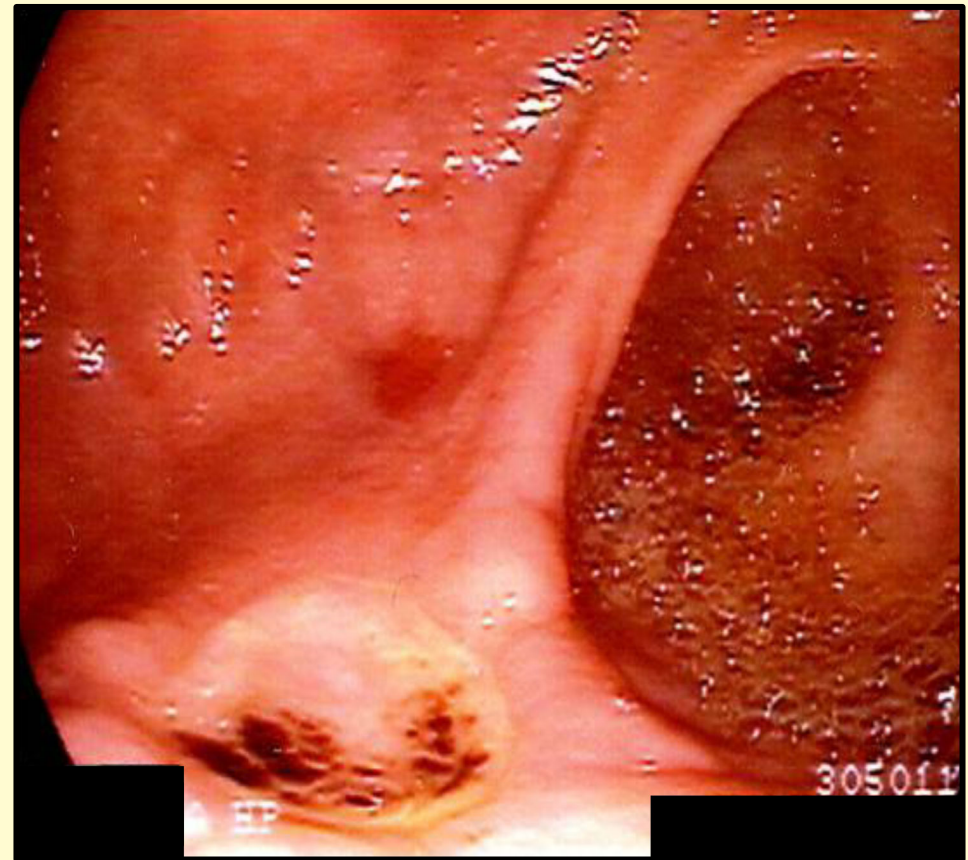
潰瘍の部位（カテーテル挿入部との関係）

A：カテーテルの内部バンパーの対側（後壁）
先端が突出したタイプのバルーン型カテーテルで発生しやすい

**B：カテーテルの側面の圧迫による
近傍での発生**

C：カテーテルとの位置関係が不明





PDN Lectures

対策

- 既往歴のチェック
- 潰瘍歴の有無に注意・・・予防的に抗潰瘍剤を投与
- 造設前の十分な説明と造設時の鎮痛・・・ストレス軽減
- カテーテルが原因の場合は内部ストッパーの材質や形状の変更
先端の突出が少ないもの
ストッパーの材質が柔らかいもの
カテーテルが常に同じ方向に倒れないような製品や管理(ボタンへ)